

令和4年度 かほく市立金津小学校 学校評価 最終報告書

重点目標	自己評価						(主担当 記入)	今後の方向 (改善計画等)
	具体的取組 (★:本年度重点評価項目)	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料	達成度		
1 基礎的・基本的な学習内容の確かな定着と活用力の育成	① 個に応じた指導を効果的に取り入れ、基礎学力の定着を図る。	【成果指標】 基礎的な計算力や漢字の読み書きの力がついている。	漢字・計算テストの平均点が全ての学級において A: 90点以上 B: 80点以上 C: 70点以上 D: 70点未満	・前期と同様、計算タイムで学習進度に応じたプリントに取り組み、ドリルパークを活用して復習している。間違えた箇所を直しをして、定着に努めている。 ・ぐんぐんタイムで、全職員が協力して補充的な学習に取り組んでいる。	【資料1】 学期末漢字・計算テスト	A	釜井	漢字は、再テストに取り組むことで定着がみられた。漢字のもつ意味理解が不十分であるため、効果的な練習を行う必要がある。計算においては、単純な計算力を図る問題だけではなく、知識として必要なところをきちんと復習する。直しを大切にして、理解の定着を図るようにする。
	② 学び合いの土台となる「金津っ子学びのスタイル～あさはよし～」の着実な定着を図る。	【成果指標】 5つの項目について、児童は常に意識し、一定の定着率に達している。	期末アンケートにおける達成率80%以上の学級数が A: 5学級以上 B: 4学級以上 C: 3学級以上 D: 3学級未満	・後期は、あさはよしの具体的なめあてを各クラスで決めて、実態に合わせたものになっている。できていない項目を重点とし、保健室の取り組みとも運動した目標にして、集中的に取り組んでいる。 ・月の初めに取り組みを確認し、結果を児童に知らせることで高まりや成長を感じることができるようにしている。	【資料2】 「5つの共通実践」(11月)の教員自己評価	A	釜井	実態に応じためあてとしたため、めあてのレベルが前期よりも高いものとなっていた。高い分だけ、結果が悪くなることはあったが、教員側の意識はとも高かった。また、各学年の様子を知ることでも、もっと頑張ろうという児童の意識にも高まりが見られた。今後は、あさはよしのレベルを明確化し、自分たちの高まりが児童自身に意識できるようなものになるように。
	③ 吟味した「深めの発問や活動」を取り入れ、授業後半の充実を図る。	【努力指標】 学びが深まる深めの発問や活動を取り入れている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・前期と同様、「5つの共通実践」のアンケートを毎週行い、意識化を図っている。また、月に一度児童のふり返りをもとにして、その時間の深めの発問がどうであったかを検証する取り組みを行っている。 ・後期は、授業構想シートを活用して相互参観を行い、ふり返るようにしている。	教員自己評価	A	釜井	深めの発問が授業の山場と捉えて、意識して取り組むことができた。児童同士の意見がつながったり、新たな考えを引き出したりすることができた。しかし、教師主導となることがあり、出場を見極めることが大切である。また、最後に児童が「分かった」「できた」で終わっているかを見取りをしっかりしていく必要がある。
	⑤★ カリキュラム・マネジメントを推進し、自ら考え行動する力を育成する。	【努力指標】 カリキュラム・マネジメントの柱「自ら考え行動する力の育成」を意識して、指導を行っている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	・後期は、付けたい力がどの程度付けられているかを把握するため、児童と教師の双方から、同じシートを使って評価を行い、それを擦り合わせることによって現状を明らかにして取り組んだ。また、そのシートを総合的な学習の評価にも用いた。それらの結果をもとに、来年度に向けて、年間指導計画の内容を変更したり、付け足したりした。	教員自己評価	A	教務(瀧田)	・今年度付けたい力とした「課題を見出し、計画を立て、解決する力」をふり返り、力が付いたこと、課題が残るものを年度末に明確にし、来年度に向かう。それに合わせて、低・中・高学年の具体的な目標も考え直していく。
	⑥★ 1人1台端末を積極的に活用し、学習活動の充実を図る。	【努力指標】 1人1台端末を積極的に活用している。 【成果指標】 1人1台端末を使った授業が楽しいと感じている。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	・月に1度の校内研修(OJTや外部講師の招待)などを通して、活用方法を周知している。また、活用方法で分からないことがあれば、教員同士で気軽に教えあっている。	教員自己評価	D	山口智	・活用している教員と抵抗を感じている教員の差が大きいように感じられる。活用事例の紹介は昨年度からたくさんしてきているので、今後求められるのは、授業の内容や児童の実態に合った活用方法を選ぶことであると考えられる。今後は、どのような活用方法が効果的なのかを検討するような研修を設けていきたい。
				・楽しいと感じている児童が A: 90%以上 B: 85%以上 C: 80%以上 D: 80%未満	・児童の積極的使用を促している。長休み、昼休みはタイピング練習のできる時間とし、授業外の時間もクロムブックを積極的に活用している。	児童アンケート		A

重点目標		自己評価					（主担当） （記入）	今後の方向 （改善計画等）	
		具体的取組 （★：本年度重点評価項目）	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料			達成度
2	正しく判断し、 進んで行動で できる力の育成と 共感的人間関 係づくりの推進	① ★ 「めあて」や「きまり」に対す る自己評価を定期的・継続 的にを行い、よりよい行動へ の意識と実践力を高める。	【成果指標】 生活目標を意識し、よりよ い行動ができるように取り 組んでいる。	生活目標のふり返りにおい て、目標を8割以上達成で きた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	1年を通して、集会の生活目標の話を劇をするなどして児童主体で行い、全校児童に呼びかけているため、自分事として取り組んでいる。さらに、学級ごとにたてためあても具体的なめあてが多くなり、それによって取り組みやすくなったり、達成できたか判断しやすかったりしたことも、よい結果につながったと考える。	【資料3】 生活目標集計表	A	山口那	集会や放送で、ふりかえりを発表する取り組みを継続し、互いに認め合ったり、自分を見つめなおしたりできるようにする。 学級ごとのめあてを具体的に決めているよさを広め、継続してもらう。
			【成果指標】 セルフチェックを通して、 自己のよりよい生活習慣 の定着に取り組んでいる。	セルフチェックカードが「ばっちり」（目標を8割以上達成）できた児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	どの学年も満点となる児童が多く、おむねできている。ただ、生活習慣が定着していない児童が固定化しているため、個別に声掛けの必要がある。	【資料4】 セルフチェック集計表	A	山口那	カードのチェック項目の起床時間やメディア時間について、ある程度のライン（時刻や時間）を児童と確かめながら、よい生活習慣となる目安を意識できるようにしていく。
		② ★ 互いのよさを認め合う場や 手だてを工夫し、自他を大切にする心 情の育成を図る。	【努力指標】 よさを認める場の設定や、 よさを伝えることに積極 的に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	前期と同様に、授業で生徒指導の3機能（自己決定、共感的人間関係、自己存在感）のうち、自己存在感を大切にしている。教師が意図的に存在感を実感できるような場の設定を意識して授業づくりを行っている。	教員自己評価	A	佐竹	生活アンケートでは、授業において、友達のためになったと感じたと回答した児童は81.8%、友達のおかげでわかったと回答した児童が94.8%と成果があった。教員のアンケートでは、意図的に児童が活躍できる場の設定をしたと回答したのは、81.9%と教員の意識が児童にも伝わっている。今後も授業や日常の児童の頑張りをクラスや学校全体に広めていき、価値付けをすることを継続し、自分に自信がもてるようにしていきたい。
			【成果指標】★ 児童は、自分のよさに気づいている。	「自分にはよいところがある」と回答する児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	いいねカードを全校で実施し、同学年や異学年の良さを見つけ、放送で全員分の良いところを伝え、広げる活動を行った。	【資料】 児童アンケート No.17	C		少人数だからこそできる全員への良いところを紹介する活動を継続していき、児童同士で友だちの良さを見つけ認める活動を行っていく。放送で言ってもらえると嬉しそうだった。
		③ ★ いじめ・不登校・問題行動の 早期発見に努める。事 案に対しては全職員で情 報共有を図るとともに、対 策委員会を迅速に開催し、 組織的に対応する。	【努力指標】★ 支援シートを作成した児童 を中心に、全校体制で支 援を行うとともに、いじめ や問題行動の未然防止に 取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	年間を通して、毎月いじめアンケートの実施をし、情報収集の1つにしている。日々の児童の様子を全職員で見取り、気になることがあったときにすぐに情報交換を行っている。	【資料】 教師児童生活アンケート集計結果	A	佐竹	今後も教職員間の情報共有を継続していく。また、管理職への・連絡・相談・報告を徹底し、組織で対応できるようにしていく。指導の記録を残していく。いじめアンケートでは、学校で行っただけではつかめなかったことが、持ち帰りアンケートの実施を通してつかむことができた。今後も児童の実態をつかむツールとして活用していきたい。
				肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	授業では、前期と同様に、自己存在感を中心に取り組んでいるが、自己決定する場、共感的に学習できるように、学習指導部と連携して、振り返りの充実を目指している。また、行事や生活目標、あさはよしでは、めあてをクラスで決め、振り返りまで行う事を繰り返し取り組んでいる。	【資料】 教師児童生活アンケート集計結果	A	佐竹	上記2の②でも記載したように成果が見られたので、今後も、生徒指導の3機能（自己決定、自己存在感、共感的人間関係）を生かすことを意識して、学習や生活、行事等に取り組んでいく。

重点目標		自己評価					（主担当） （記入）	今後の方向 （改善計画等）	
		具体的取組 （★：本年度重点評価項目）	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料			達成度
3	情操豊かな心の育成	① ★ 道徳科の充実を中心に、道徳教育の推進を図り、道徳性を養う。	【成果指標】 道徳の授業づくりを工夫する。 ア 中心発問の吟味 イ 言語活動の充実 ウ 価値の自覚化 エ 道徳掲示の蓄積	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	5月に道徳推進教師が提案授業をしたことで、授業の仕方を教師間で共通理解できて良かった。また、GIGAの研修でICT機器を使った気持ちの表現方法も学ぶことができた。昨年度に引き続き、給食時に子ども達に授業の様子を放送して道徳の授業での頑張りを伝えている。	教員自己評価	A	出倉	本校の重点目標である、「親切・思いやり」「希望と勇気」を教師、児童が共有していく必要がある。そのために、授業や放送等で重点目標について共有する場を持つ。また、別業をもとに意識して声かけや指導をしていく。地域とも連携し、ゲストティーチャーを招く機会を設けていく。
		② 「金津の森」を活用した自然体験活動や、講師を招いての文化的体験活動、交流活動に取り組み、豊かな感性を養う。	【成果指標】 「金津の森活用計画」に基づき概ね活動できている。 【努力指標】 講師等を招き、体験活動の充実に取り組んでいる。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満 肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・後期も「金津の森活用計画」に基づいた活動を順調に実施することができた。 ・生活科・総合的な学習をはじめ、学年に応じた金津の森の活用をすることができている。 ・体験活動では、「金津の森の虫」「金津の森を知ろう」「炭づくり」等で豊かな体験活動をする事、地域のよさを感じながら愛着をもつことにつなげることができた。 ・総合的な学習で取り組んでいる3年生を中心に、金津の森の魅力を外部に発信したいという気持ちが高まり、それに向けての活動が始まった。	教員自己評価	A	教務（瀧田）	・コミスク事業における金津の森の活用では、これからも学校コーディネーターと連携しながら地域の人材を活用したり、講師を招いたりして行っていきたい。児童は、入学したときから学年の取り組みを見ているので、その学年になったら取り組んでみたいと多くの児童が思っている。活動が伝統になりつつある。 ・ICTも活用しながら、他地域に金津の森の魅力を発信していく活動を進めていく。
4	健康と体力の向上に心がけ、本気でがんばるたくましい力の育成	① ★ 体力アップ1校1プランをもとに、体育の授業や「風っ子タイム」を通して体力向上の目標達成に努める。	【努力指標】 教科体育において、課題となる運動能力の強化を含め、体力向上に取り組んでいる。 【成果指標】 児童は風っ子タイムに楽しく取り組んでいる	肯定的な評価をする教員が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 風っ子タイムに楽しく取り組んでいる児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・教科体育の準備運動では「跳」の運動や柔軟性を高めるストレッチ等を各学年が取り入れて、学習を展開している。風っ子タイムを11月、12月に行い、運動に親しむことができるような創造的活動を行った。	教員自己評価	A	山口智	・今年度の課題である、「跳」の運動において、4から6年生の立ち幅跳びの平均値が県平均を上回った。運動能力の向上が数値として現れた。今後も子供たちや教師にとって負担なく、長い期間で取り組めるような取組を提案していきたいと思う。
		② ★ 視力の低下防止のための継続的な取組を実施するとともに、家庭と連携して生活習慣の定着を図る。	【努力指標】 視力をはじめ健康管理等の指導の充実に取り組んでいる。 【成果指標】 ★ 児童には、健康的で規則正しい生活習慣が定着している。	肯定的な評価をする教員が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満 毎月のセルフチェックの結果及び学期末、児童・保護者アンケートが A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	・年間計画の作成 ・視力B以下の児童、保護者に受診勧告 ・6月11月、「あさはよし」の学習規律にあわせて「よい姿勢」を重点的に取り組んだ。 ・全校集会で視力低下防止の保健指導 ・視力測定時に目の健康についての保健指導を行った。 ・ICT担当教員と協力し、メディアと目の健康について保健指導を行った。 ・学校保健委員会のテーマに取り上げ、全校児童や保護者で考える機会を作った。	教員自己評価	A	田中	年間を通して、生活習慣の向上と絡めて、目の健康についての保健指導を職員が連携して取り組むことができた。GIGAスクール推進と同時に、視力低下防止対策は、職員共通理解のもと今後も継続した取組が必要である。
						【資料】 児童アンケートNo.14 保護者アンケートNo.10	B	田中	

重点目標	自己評価						今後の方向 (改善計画等)	
	具体的取組 (★:本年度重点評価項目)	評価の観点	達成度判断基準	取組状況	資料	達成度		
5 家庭や地域から信頼され、連携して子どもを育てる学校づくりの推進	① 各種たよりやホームページ等により、積極的に学校の情報を発信する。	【成果指標】 HPや学校だより等各種たよりで、学校の情報を発信している。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	1ヶ月に1枚以上、学校便り、各学級からの学年便り等をコドモンを活用して配信している。また、学校行事等の情報は写真や動画を入れながら随時発信している。	教員自己評価	A	教頭・山口智	・今後も継続して、月に1枚以上の学校便り、学級便りを出す。ホームページ更新も定期的に行い、家庭に学校の情報や教育成果が伝わるようにしていく。コドモンを効果的に活用していくことで、より情報を素早く、正確に保護者に伝えることができるようにしていく。
			肯定的な評価をする保護者が A:90%以上 B:85%以上 C:80%以上 D:80%未満		【資料】 保護者アンケート No.14	A		
6 教職員の働き方の徹底と人材育成	①★ 会議や行事、PTA活動の効率化と最終退校時刻の設定を行う。	【努力指標】 実施計画に基づき、各自が業務改善を意識しながら取組を進めている。	肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	会議等の効率化と定時退校日や最終退校時刻の設定を行っている。4～12月の時間外勤務時間は、月1人あたり平均35.2時間(昨年度30.7時間)である。業務の効率化については、多忙な月があることや個人差の問題があり、見直しが必要である。	教員自己評価	C	教頭	今後、定時退校日や最終退校時刻の意識化を図るとともに、業務の平準化を進める中で時間外勤務の時間を減らす。また、同僚性を高め、教職に対するやりがいを持てるような職場づくりを目指していく。
			肯定的な評価をする教員が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		【努力指標】 PDCAサイクルを意識して、担当業務を進めている。	教員自己評価		

R4 最終(全22項目)	A…18	B…1	C…2	D…1
R4 最終(全22項目)	A…18	B…1	C…2	D…1
R3 最終(全24項目)	A…20	B…3	C…1	D…0
R3 中間(全24項目)	A…23	B…0	C…1	D…0
R2 最終(全22項目)	A…20	B…1	C…1	D…0
R2 中間(全22項目)	A…20	B…1	C…0	D…1
R1 最終(全22項目)	A…19	B…2	C…0	D…1
R1 中間(全22項目)	A…19	B…2	C…0	D…1
H30最終(全22項目)	A…19	B…3	C…0	D…0
H30中間(全22項目)	A…17	B…4	C…1	D…0
H29最終(全22項目)	A…11	B…8	C…3	D…0
H29中間(全22項目)	A…11	B…5	C…4	D…0